

2003年11月7日

株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町

2-5 F-Kビル

TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165

URL <http://www.fuji-keizai.co.jp>

広報部 03-5614-1078

自動車産業の21世紀R&D戦略調査を実施

- 日本を代表する自動車メーカー8社、部品メーカー72社の最新の研究開発動向を収録 -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)はこのほど、高収益企業を中心に調査して報告書、「次世代技術にチャレンジする自動車産業の21世紀R&D戦略」調査をまとめた。

<調査対象> 日本を代表する完成車メーカー8社と自動車部品メーカー72社

<調査方法> 富士経済中部インダストリープロジェクトによる直接面接およびアンケート調査を中心に各社のデータサーベイにより補足した。

<調査期間> 2003年7月中旬～10月10日

<調査項目>

先進企業ケーススタディ編

1.企業概況 2.2003年度事業計画の概要

3.R&D体制

1)全社組織図 2)R&D組織図 3)セクシヨン別研究内容(担当製品)とマンパワー 4)研究開発人員構成 5)研究所の有無と概要 6)組織の特色

4.研究開発投資状況

1)研究開発テーマ数と増減傾向 2)研究開発費・R&D人員推移 3)公開特許・公開実用新案数推移

4)大卒者の採用人員推移(採用実績校 専攻)

5.次世代技術の開発状況

1)環境対応技術 2)安全技術 3)快適性向上技術 4)情報通信技術

6.最近のライアンスの状況 7.社外研究機関の活用状況 8.R&D部門の海外進出状況と今後の計画 9.R&D部門の課題と対応策 10.技術提携状況

ベースデータ編

1.研究開発テーマ数の増減傾向 2.研究開発費推移 3.R&D人員推移 4.公開特許・公開実用新案数推移 5.大卒者の採用人員推移

調査の結果

日本の産業界は回復基調に転じている。5月発表の自動車メーカー11社の2003年3月期決算では、連結売上高は11社中10社が増収となり、トヨタ自動車、本田技研工業、日産自動車、スズキ、日野自動車工業の5社が過去最高を記録した。また、9社の営業利益が増益となり、トヨタ自動車、本田技研工業、日産自動車、スズキの4社が過去最高となった。

自動車産業は80年代、90年代と紆余曲折があり、21世紀には“成熟産業”、“衰退産業”とする見方もあったが、自動車関連企業の経営努力によってそれを克服し、さらに成長を遂げている。このように自動車産業は日本経済再生・発展の牽引役を果たそうとしている。

世界からも、自動車業界からも、さらに周辺産業のベンダーからも“次世代技術”の開発が渴望され、その動向に注目が集まっている。

成熟したと言われる自動車産業であっても、時代を見据えた経営戦略によって技術革新の余地が生まれ、「次世代自動車・部品」が誕生し、夢が広がる。そこからさらに事業規模が拡大し、経営環境が改善されるという好循環が実現する。

“次世代技術”のキーワードは、「環境対応」、「安全」、「快適性」、「情報通信」が挙げられる。

調査のポイント

自動車産業の21世紀初頭の方向性

トヨタ自動車(株) (愛知県豊田市) 環境への対応 2002年12月に、燃料電池ハイブリッド乗用車「トヨタ FCHV」の限定販売を開始し、すでに日米に数台をリース販売している。2003年には日本政府などに販売する計画である。

ハイブリッド駆動用リチウムイオン電池 2003年に開発に着手し「ヴェッツ」に搭載したタイプを大容量・高出力に改良して駆動用にも利用することを計画している。

本田技研工業(株) (東京都港区南青山) 域内関税の引き下げが大幅に進むアセアンで、新工場をネットワークに組み入れ、重複生産を見直し、効率性の高い相互補完体制を構築する。インドネシア、フィリピンで生産されるトランスミッションを欧米工場向けに輸出する。また、中国で輸出専用工場を新設し、欧州やアジア地域向け生産の開始を目指している。

・2003年に発表した「インターナビ・プレミアムクラブ」 多種多様な情報から一番必要なドライバーへの情報を提供するシステムとして独自に構築した。2004年以降このナビシステムをほとんどの車種に展開して今後の車の情報の流れを先取りしカーライフを幅広くサポートする計画である。

日産自動車(株) (東京都中央区銀座) 2003年に東風汽車会社との合併会社の操業を開始し、2006年までに中国市場に6車種を投入する計画である。

先進安全自動車(ASV) 先進安全技術の開発と実用化を目的として国土交通省が推進しているプロジェクトであるが、同社もこのプロジェクトに参画している。既に「レーンキープサポートシステム(運転負荷軽減装置)」、「車間自動制御システム」、「ミリ波レーダーによる衝突予測装置」、「赤外線イメージセンサ」などの実用化に繋げている。

(株)デンソー(愛知県刈谷市) 日系自動車メーカーや北米および欧州の自動車メーカーの海外拠点への拡販を指向している。中国およびアセアン諸国の成長市場への進出と実績の拡大を目指す。

カーナビやETC端末に関する技術と無線通信技術の双方を有する強みを生かした通信モジュール技術を核に、ITS分野における事業展開の可能性を模索する。ITS事業部及び技術開発センターにおける重点研究テーマにITS事業を挙げて研究開発を強化している。

日信工業(株)(長野県上田市) アルミ技術に特化しており、自社製品の軽量化によって自動車の燃費改善につなげ環境対応を図っている。さらに軽量化を図るために軽金属合金にカーボンナノファイバーを組み合わせた新複合材料を利用した自動車部品の開発に着手している。

三桜工業(株)(茨城県古河市) 同社のニッケル水素バッテリーは現在、ホンダのロボット「ASIMO」や電動自転車に用いられており、環境にやさしい次世代2次電池として開発に注力している。最近では、小型化と高出力化も両立させ、今後自動車への展開を念頭に入れて開発を進める。

以上

資料タイトル 次世代技術にチャレンジする自動車産業の21世紀R&D戦略

体裁 : A4判 354ページ

価格(税別) : 101,850円(本体価格97,000円 消費税4,850円)

調査編集 名古屋マーケティング本部 TEL 052-232-9200(代)

発行所 : (株)富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F Kビル

TEL 03-3664-5811(代) FAX 03-3661-0165

e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>